

**第 18 号**  
 12月20日(水)  
 広報委員長 木下 豊  
 広報委員 安財貴久男  
 塩尻 利一  
 内山 英行  
 吉田 健二  
 奥田 亮

**小布施まちづくりボイス**

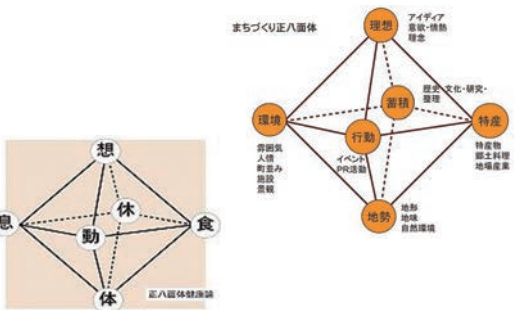


E-mail: kouryuu@town.obuse.nagano.jp HP: http://www.town.obuse.nagano.jp/

発行 小布施まちづくり委員会  
 会長 木下 豊  
 事務局 小布施町役場  
 企画政策課 定住交流係  
 Tel.026-214-9102  
 編集 小布施まちづくり委員会  
 広報委員会  
 2008(平成20)年12月18日創刊  
 2017(平成29)年12月20日第18号  
 ©小布施まちづくり委員会



「語らい座」第2弾が開催された。  
 講師は初代まちづくり委員会会長の小山洋史氏で幅広いテーマについて語って頂いた。1.「まちづくり委員会発足までの経緯」、2.「ア・ラ・小布施誕生までの歩み」として3.「認知症にからならないために」の大きな3つのテーマについてお話を聞かせていただくという貴重な一夜を出席者全員が共有することが出来た。



1. 1990年代、バブルがはじけ、国の財政も一段とひっ迫してきたころ、まちづくり委員会発足への機運が高まり、平成20年に至り、まちづくり委員会が産声を上げた。発足以来今年度で10年という大きな節目を迎える。設立以来、小布施町行政との間に、「パートナーシップ協定」を結んで今日に至っている。設立当初から町議会との友好関係も構築され、最近では、両者間の意見交換の場が設営されている。設立当初、喫緊の課題として誕生した「千曲川ハイツエイミュージアムの有効活用を考える部会」はすでに当初の役割を終え、現在では、「安全」、「環境」、「福祉」、「交流」に加えて、「共育」を考える部会、「定住促進」を考える部会「の六つの部会が活発な活動を行っている。設立当初からある「交流部会」は他組織にはないユニークな存在となっている。

第3回語らい座は、12月1日に金田功子さん(高井鴻山記念館館長・福原をお迎えして開きました。「高井鴻山さんと葛飾北斎さんから学んだこと」をテーマにしたお話から、現代を生きるわたしたち小布施人の未来に向けたあり方を考え、語り合いました。これまでにない数の聴講者で会場が満席になりました。ご参加ありがとうございました。当日の内容は、次の19号にてレポートいたします。



2. ア・ラ・小布施はなんと「株式会社」として誕生している。通常、この種組織は行政主導、あるいは第3セクターによる組成が一般的であるにも拘わらずである。なお、驚かされることに株式会社からの将来生ずるであろう純利益からの配当はすべて「まちづくり」に活用される。それにも拘わらず、少なくとも人数が出資にに応じたという。こんな一面にこそ、住民の小布施に寄せる思いの深さが端的に表れているといえないだろうか。

3. 認知症予防法については講師の貴重な海外経験を踏まえての講話に全員が注目深く耳を傾けた。その骨

子は、健康維持のため必須の「食、息、動、想、体、休」の6つの観点を中心に、懇切丁寧な解説を交えながらの講話に誰もが巧みな話術に惹かれながら、その予防法への理解を深めていった。講師の話題は認知症予防法にとどまらず、ご自身の体験に裏付けされた小布施町での研究「小布施史料調査会」活動や健康維持手法のまちづくり委員会活動への応用、さらには若手大学教授による小布施研究のサポートと極めて多岐に亘っており、言葉の端々に講師の小布施町に寄せる極めて強い愛情を感じ取ったのは一人執筆者のみではなかったはずである。

(内山英行)

## 第2回「小布施まちづくり語らい座」開催

開催日 9月1日(金) 於 公民館講堂

### 第2回講師 小山洋史さん

小布施まちづくり委員会初代会長  
 有限会社穀平味噌醸造場取締役社長

## テーマまちづくりと私が学んで来たこと

環境を考える部会

# 菌ちゃんと共に、発展します！

当部会も10周年を迎え、これまで、生ごみ堆肥化による生ごみ減量を行ってきました。この数年は、さらに菌ちゃん(微生物)による土作り、元氣野菜の普及と食育活動まで発展してきました。

本年度は、長崎県よりNPO法人大地といのちの会理事長 吉田俊道先生をお招きし、食育・土作り(栗ガ丘小学校4年生、小布施町6次産業センターへ菌



ちゃん農園にて一般向け)講座、人参の栽培、収穫祭を実施しました。収穫祭では菌ちゃん野菜



汁の振る舞い・紙芝居による菌ちゃんエコサイクル紹介・ボカシ作りを行い、少しずつではありますが、我々の活動も浸透してきていると思います。そして、部員も増えとても活発化してきており、飛躍の年となる

部会長 工藤陽輔

りました。来年度以降も地道にコツコツとこれらの活動を行っていきます。

これからは、環境、農業、食育をベースに、菌ちゃん農法を広め、皆様が健康で幸せに過ごせる環境を作っていきたいと思えます。また、他部会とも連携し、まちづくり委員会全体も盛り上げられるよう、頑張っていきます。

☆当部会では、随時部員、菌ちゃんファンクラブ会員を募集しております。一緒に野菜を栽培しませんか？

# 一年間の活動を終えて (平成29年1月)

日頃より福祉部会の諸活動にご理解を頂き感謝申し上げます。

本年は1月の大雪にも関わらず多くの方々にご参加いただいた、認知症の人形劇の開催からスタートしました。この人形劇で認知症

の全てを理解する事は出来ませんが、何かのきっかけになればと開催いたしました。いかがでしたでしょうか。

また皆様にご協力いただきましたアンケート結果につきましましては、寄せられた

内容すべて部会で目を通し、話し合いました。

高齢者・障がい者・児童福祉・生活困窮等の福祉全般に関して複数のご意見を頂きました。

当部会では必要に応じて、関係機関や担当者にお伝えし対処して頂きます。また個人的には、福祉基金の活用懇話会や障がい者

部会長 花村一二

福祉計画策定懇話会などに参加させて頂く機会があり、部会で得た知識や、アンケートから得た皆様の生の声が大変参考になりました。

来年も小布施町の福祉の充実に、微力ながらもご協力が出来ればと思います。来年もよろしくお願致します。

## シリーズ連載2

### まちづくり委員会 設立の経緯 (その2)

小山 洋史  
小布施まちづくり委員会 初代会長

Q1 まちづくり懇話会や以前の百人委員会、また町長との懇話会で十分では？

A まちづくり懇話会や町長との対談は「公聴」であり、それは良いことですが機会と時間があれば続けていくべきと思います。それに対し町民会議は「住民参画」のしくみであって、はっきりと区別しなければなりません。

「公聴」は行政が幅広く町民の意見を聞くことであり(懇話会など)町民会議は様々な意見の中から具体的な施策を一

Q2 町民会議が実現すれば、議会はいらなくなってしまう？

A そんなことはありません。例えば町民会議が特定の個人や団体のメンバーで占められてしまうと、行政の進め方によっては、それら特定の個人・団体への利益誘導が行われる危険性もあります。それをチェックできるのが議会であり、議会はより大きな役割を担っています。

### あなたも「まちづくり委員会」に参加しませんか！

様々な立場の人が自由に意見を交わし、住みよいまちづくりを考え実践する場として、平成20年にスタートしました。「安全」「環境」「福祉」「交流」「共育」「定住促進」の6つのテーマごとに部会を設け、月に1回くらいのペースで集まって活動しています。

そんなまちづくり委員会にあなたも参加してみませんか。参加をご希望の方は、下記事務局へお申し込みください。

小布施まちづくり委員会事務局

Tel:026-214-9102

Fax:026-247-3113

E-mail:

kouryuu@town.obuse.nagano.jp

共育を考える部会

第6回おぶせ未来共育会議報告

おぶせの未来をつくる  
3つの心を育てよう!!

第6回おぶせ未来共育会議を11月19日(日)に公民館講堂で開催しました。今回は南信の泰阜村のNPO法人グリーンウッド自然体験教育センター事務局長の齋藤新さんから「根っこ教育」の重要性についてお話を聞きしました。「根っこ教育」とは樹木に例えると立派な葉や花をつけても、強風やトラブルにあった時に幹や樹木が簡単に倒れないよう根をしっかりと張ること。

人間が生き抜いていく上での根幹(土台)となるものであり、小布施の未来を担う全ての子どもたちに持っていてほしいものです。

今の子どもたちは自己肯定感が低く、体験の学びが少ないため、自分で生み出す力が弱いということ。そのために「主体性」



部会長 元田和行  
てなければならぬと、講師の齋藤さんから学びました。未来をつくる3つの心「生み出す心」「楽しむ心」「感じる心」を持つ子どもたちを、小布施町の風土、人、暮らし、自然の中で育て、生きるための良質な価値観を持つことができるように家庭、地域全体で共育していくことが大切です。

「社会性」「多様性」を育てる必要があり、それは実体験や暮らしの中で繰り返し育

部会長 櫻井敏夫

てくれます。町と移住定住コーディネーターが仲介し成立した物件は、この1年で5件を数えます。また「空き家空き店舗活用セミナー」を定期的に開催する予定です。お考えの方は、ぜひ聴講ください。

平成18年に市街化調整区域内での開発許可基準の緩和地区に指定されたことで、昨年度末までに66戸

交流を考える部会

広げよう交流の輪

今年も交流部会は、餅つき大会、多文化交流会、ビア・イベント、夏休みの子ども向けにスイカ割とお絵描きを開催し、三世代交流や、異文化体験交流ができました。今後はさらに小布施町民だけではなく、近隣の人たちとの交流も活発にし、いい情報も共有していけたらと思います。

今年も木下会長の発案で、「語らい座」という素晴らしい文化サロンが実現でき、12月1日に開催された金田高井鴻山記念館館長の講演で3回目となります。ご案内に、町外の方歓迎と書いてあるのがとてもいいとお褒めの言葉をいただきました。せっかくやるのですから町外の方々にも聞いていただき、そこから小布施を好きになってもらい、交流が始まるならこんなうれしいことはありません。

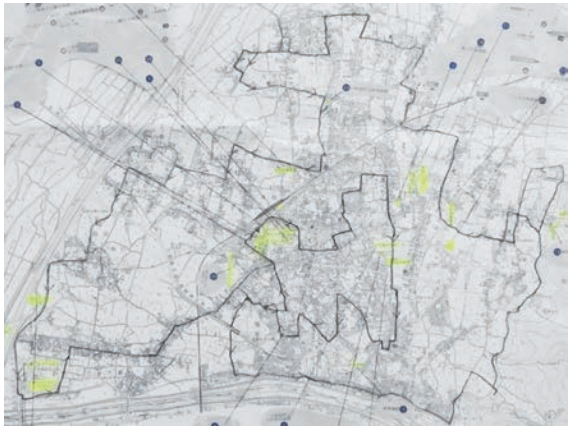


部会長 芋川恵子

# 安全部会活動報告

安全部会では、今年度手作りの防災グッズを試作し、その試作品を10月の六斎市で展示しました。これからも使い勝手など実用性を話し合いながら、防災グッズの試作を進めていきます。

また8月には、下記の防災ミニ講座でも触れている青パト巡回ですが、どこを回ればより見守りの効果が上がるかを改めて検討し、六斎市でその経路図を展示しました。



11月には青パト講習会が行われ、まちづくり委員会から部会員を含め5名の参加をいただきました。今後も青パト巡回に協力していただける人を募集しながら、活動を継続していきます。

## 防災ミニ講座 避難所開設の体験ゲーム

公民館の堀込館長を講師に、避難所開設の体験ゲームを行いました。このゲームは避難所となる施設の見取り図と、避難者の家族構成等が書かれたカードなどを用意して行います。避難者の家族構成や体調・体力などを考慮しながら、避難所のごとで過ごしていただいたら良いかということに参加者で瞬時に判断してカードを見取り図に配置していくものです。



部会長 塩尻利一

次々と到着する避難者を待たせることなく、避難者を避難所へ配置(案内)することができ、机上ではありましたが、実際に災害が起こったときを想定しての避難所開設や避難者誘導といった訓練は、いざというときの心構えになると思います。

広報委員会

## 10周年記念特集号の原稿を募集します。

小布施まちづくり委員会では2008年12月18日(平成20年)に創刊号を発行し、19号でまる10年となります。そこでページを拡大し、10周年特集号にふさわしい皆様のコーナーを作りたいと思います。テーマは自由、文字数は500字以内、写真1枚までで来年の1月末を締切日とします。また、まちづくり委員会の提言や諸活動についての意見も掲載する予定です。ぜひご期待ください。

### 活動報告

- 8/4 第7回ビアアーベント 撮影
- 8/24 安全部会 防災避難ワークショップ 撮影
- 9/1 第2回 語らい座 撮影
- 9/3 協働のまちづくりフォーラム 撮影
- 10/29 空き家・空き店舗活用セミナー 撮影
- 11/21 ボイス 18 号広報委員会 編集会議
- 12/1 第3回語らい座 撮影
- 12/4 ボイス 18 号 編集入力開始

小布施まちづくり委員会 facebookの「いいね」が116件を超えました!

## 編集後記

※ 今年の日本は「忖度」「ミサイル」「品格」。小布施町は荒井選手の「銀メダル」「北斎」の一年が終わりです。(安財)

※ これからの安全部会の取り組み、住民が防災意識広めていきたいと思えます。コミュニティごとに、避難訓練カードなどを利用して、広めて行けたら良いなと思います。(塩尻)

※ 十年目という大きな節目を迎える今年、集大成に向け気合がこもります。(内山)

※ 次のボイス19号はまちづくりすべての人に読んでいただける紙面に挑みます。よいお年をお迎えください。(吉田)

※ ご意見、ご感想など、お寄せいただけましたら幸いです。来年もよろしくお願いたします。(奥田)